

自己評価結果票

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に基づき具体的に処遇方針として掲げ「安心できる自分らしい生活」「自己決定の尊重」「家庭的な環境でなじみの関係」「自立支援」「地域社会の一員として生活」を大切に支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内玄関入ったところに掲示している。職員採用時のオリエンテーションにもわかりやすく説明をしている。また日常のミーティング、会議で浸透するように取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念はご家族の面会時等ご覧いただけるよう、玄関に標示している。また、地域交流事業として夏祭り、餅つき大会を開催し、地域住民の参加を呼びかけ、多数の参加者あり、啓発に取り組んでいる。そのほか、年2回機関紙を発行し、啓発している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣住民の方々に立ち寄っていただけるよう、運営推進会議や行事の際に呼びかけている。地域住民の方が朗読ボランティアとして定期的に訪れている。また、多目的ホールにて住民の方による喫茶を週1回開催している。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	神和保育園より定期的に招待を受け参加している。さらに年1回互いの年間行事として位置づけて交流会を開催し、園児に訪問してもらい遊戯や歌を発表してもらっている。また、広野小学校5年生と年2回ふれあい訪問として交流がある。	○  今後も園児とのふれあいの会は継続したい。また、グループホームの創立記念バーベキュー大会に地域のボランティアにも参加してもらおう予定をしている。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のボランティアを受け入れている。週1回の地域住民による喫茶を利用してもらえるよう、近隣に呼びかけている。運営推進会議で施設のスペースを利用していただく様な呼びかけをしている。	○	今後もボランティアの受け入れを積極的に行なって行きたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回指摘の改善項目に対して積極的に取り組むことが出来た。また職員の役割分担により、自己評価を実施し、その結果それぞれが改善すべく取り組んでいる。	○	今後も、自己評価・第三者評価をツールとして、ケアの質の向上につなげたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、活動状況や日頃のホーム内の状況をプロジェクターや写真を活用しながら、具体的に分かりやすく説明し、それぞれ役員(利用者代表、利用者ご家族代表、地域包括支援センター職員、民生・児童委員)の意見をサービス向上のため活かしている。		
9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の介護保険運営協議会委員を委嘱しており、同業者以外との交流を図る機会を持っている。市町の依頼があり、ホームの説明・グループホームの役割等の見学会を受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないが、今までに全職員が制度について学ぶ機会を持っていない。	○	職場会議等にて制度を学ぶ機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらないようミーティングを行い注意を払っているが、職員が高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会は今現在持っていない。	○	市発行の高齢者虐待マニュアルを活用し高齢者虐待関連法等について学ぶ機会を持ちたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得	契約や解約の際には時間をかけて説明している。家族からの質問等も、納得して頂けるよう努めている。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	利用者の意見等は、いつでも聞き入れられる対応をしている。また日々の様子を観察し、必要に応じ職員から声かけを行っている。	○	外部者へ表せる機会という形は設けていない。
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告	年1回家族の了解のもと健康診断を実施している。毎月上旬に前月の様子を担当職員が利用者について便りを書き家族に報告している。また、面会時には最近の様子などを報告している。年2回法人の機関紙『はっぴー通信』を発行し送付している。		
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
15	○運営に関する家族等意見の反映	玄関に意見箱を設置しておりサービス改善につなげている。年1回アンケート調査(無記名)を行い、ご意見、要望をしっかりと受け止めケアに生かすようにしている。		
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
16	○運営に関する職員意見の反映	月1回管理者と職員とで会議を持ち、運営、処遇に対する意見を聞いている。職員採用等に活かしている。		
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者の状況の変化にともない、会議を通して話し合いを持っている。		
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている			

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員に意識調査表を提出してもらい、異動の希望や悩み等を管理者に直接伝えることが出来るようにしている。未然に状況を察知できるようにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には入職時にオリエンテーション、新人研修を行い、その後はホーム内でOJTを中心とした研修を行っている。年度初めに東播磨ブロックの1年間の研修予定表が配布されるので、日程表を事前に渡し、調整をし順次参加を促している。また、定期的ではないが、認知症の勉強会がある。認知症の理解を深めるため「知ってなるほど！塾web学習システム認知症介護講座」を使用し研修を行なっている。	○	法人内にてジョブローテーションにて人材育成を計画している。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	調整不能により、現在のところ交流できていない。	○	今後の検討課題と考えている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の親睦組織を結成し、職員の親睦旅行や新年会、忘年会等定期的に実施し、職員相互の親睦を図っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員意識調査により管理者は職員個々の努力、頑張った事、今後受けてみたい研修、学びたい技術を具体的に知ることが出来る。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に見学に来て頂くよう呼びかけ、本人からの思いを聞いたりし、不安を取り除く様している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に見学に来て頂いたり、職員が自宅等へ出向き本人や家族の意向等を聞く様にしている。電話等の問い合わせについても、常に対応出来る体制をとっている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望や困っている事を把握するようにし、必要に応じて居宅介護支援センター等と連絡をとり、他のサービスの利用について対応出来るかなど連携をとっている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人が生活されている場所を訪問する様にしている。また見学等いつでも受け入れ、雰囲気になじんでいただくようにしている。居室への持物は本人のなじみのある物を持ち込み使用して頂いている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、なじみの関係を築く事に努めている。利用者からは昔していた調理の方法や片付けなど教えて頂いたりしている。	

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	行事当の参加を呼びかけ、家族と一緒に行事を進行したり、外へ出る行事には声かけし、付き添って頂いている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には利用者の状態を報告したり、家族から利用者の情報を得られるよう努めている。また家族には行事等の参加を呼びかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の施設を利用された場合は、職員が利用者の情報を提供したり、様子を見に行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入所前の馴染みの方からの問い合わせには対応し、希望があれば面会に来て頂いている。リビングの席は話しやすい席の配慮を行なっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も問い合わせには対応し、併設の施設を利用された場合は、職員が様子を見に行っている。		



項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者が何を思っているのかを理解できるよう声掛けを行っている。また、利用者の気持ちの把握が困難な場合、ご家族から情報を得たり、本人の行動などから気持ちを汲み取ることが出来るよう努力している。	
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は入居される際に出来るだけ把握できるよう情報収集に努めている。また、これまで利用してきたサービス事業所などと連携をとっている。	
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各々の生活パターンを把握するよう努めている。血圧・体温の測定は毎日行い記録している。食事・水分量も記録し、健康状態に注意をはらっている。	
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意見、要望は出来るだけ取り入れるようにしている。本人の生活歴を入居前に把握できるようにしている。入居時に家族や入居者の希望を聞き、課題を分析し個々の特徴を捉え、目標を立てて、具体的な介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月での見直しを基本として、状態の変化や問題があるときに随時見直しを行っている。	

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録をケース記録に記入し、介護計画に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションとの契約により、24時間体制にて利用者の健康管理を行っている。医療機関への受診はご家族より要望があれば職員が付き添うなど対応している。また、併設施設との連携もとれ、柔軟な対応が出来る。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員との連携は、行事、会議など機会があるごとに連絡し、招待している。また、ボランティアも地域の方の参加を得ている。	○	地域のボランティアの方を通じて関係を広げて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者や家族の意向を聞き、居宅支援事業所等と連携をとり、円滑にサービスが利用できるよう支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより2ヶ月毎の運営推進会議の参加を得ている。その都度意見を交換する機会を得ている。		



	項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に主治医がおり、家族の希望で受診している。また、家族と相談して職員と一緒に受診、往診もある。緊急時にも受診できる体制が整っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人嘱託医である精神科医に認知症に関する質問や助言をいつでももらえる。		
45	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の訪問看護ステーションと連携している。月4回定期的に訪問を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時より医療機関との連携を密に取る様心がけている。また退院前には医療機関に出向き、本人の状態を把握し、退院後スムーズに受け入れられるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期についてご家族に「看取りについての指針」を説明し、同意を得ている。入居後、状態の変化が少しでも見られたときには、主治医やケアマネージャー、職員などを交えて話し合うようしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合の対応について家族に説明し、同意を得ている。協力医療機関や主治医との連携体制を取っている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えについては家族・職員や居宅支援事業所等の関係者と話し合いを密に行い、利用者や家族に不安が無いよう対応している。移り住む先には、家族の了解を得た上で情報を提供している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼名は名字で行なう。入居者個人の生活暦を知り、人格を尊重した対応を心がけている。入職時に職員は個人情報に関して誓約書を交わし、個人情報保護法の理解を深めている。秘密保持については明示しご家族に説明している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活において入居者が希望されることを大切にし、レクリエーションや散歩などの外出、掃除なども自己決定していただけるよう声掛け行なっている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を第一に考えて日課表の作成を行っており、入居者最優先の流れにて行動している。外出や買い物等にも、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。希望によって毎月季節に応じてドライブ、美術館などに行く機会がある。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の好みを尊重し、清潔におしゃれを援助している。髪型、化粧品も希望に合わせている。また、理容、美容は本人の望む店にいけるようご家族と連携をとっている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や準備、片付け等は入居者の力量に応じて共に行い、楽しみながら食事していただけるよう取り組んでいる。		
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在お酒、タバコを望まれる利用者はいないが、おやつなどは一人ひとりの体調を見ながら楽しんでいただけるよう支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に毎日の排泄パターンを把握し、その方に応じた声掛けにてトイレでの排泄支援を行なっている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調を把握して上で個々の希望に合わせた入浴を支援している。自力で可能な方には見守りを行い、誘導など介助が必要な方には、不安や羞恥心に配慮し一人ひとりにあった入浴支援を行なっている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠のため、日中の生活リズムを整え、余暇活動を行なっている。眠れない場合、飲み物を提供し話を聞き、納得し休まれるまで付き合っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご家族からの情報や日々の生活の中での観察により、食事の準備やシーツ替え、洗濯や掃除等個々に適した役割をもち、楽しみながら出来るよう支援し実践してもらうように心がけている。また、個人の好みに応じたレクリエーションの支援を行なっている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者の希望により金額は違うが本人が管理できるよう、個々に金銭の大切さを説明支援している。家族面会時に使用している分の説明を行っている。毎週のホーム喫茶やパンの販売時には、希望者を募り購入支援を行っている。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩は天候など状況を見て随時行い、不安定な方は車椅子を使用し屋外へ出ている。また、買い物も職員と共にいけるよう取り組んでいる。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>本人の希望がある時は家族の協力を得ている。また、家族が入居者の外出に積極的なときは、外出して頂けるよう支援している。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>居室内に電話は設置していないが、希望者は携帯電話を持参している。また施設内には入居者用の電話を設置し職員は離れたところで待機している。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>家族が訪問しやすいような雰囲気作りに努め、面会は居室以外に喫茶コーナー等利用できる場所を案内している。また、宿泊なども気軽にさせていただけるよう家族に話し、実際宿泊されている。</p>		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>現在、身体拘束の対象者はいない。職員には、資料を配布し説明を行っている。</p>		


項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	地域の協力は今のところないが、地域に働きかけていく予定である。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりのリスクについては入所時の家族に説明している。入所後も必要に応じ、理解して頂くよう努めている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェック(体温、血圧、脈拍)を行い記録している。また、状態に変化があれば主治医に連絡するなど対応を行っている。		
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者自身が服薬管理できる方は自分でしていただいているが、随時服薬の確認を行っている。服薬管理できない利用者は医師より薬の説明を受け把握した上で、服薬支援を行い記録している。		
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事・水分量は毎回チェックし記録している。水分不足にならないよう努めている。ホーム内を歩くよう声かけしたり、散歩に出るときは声かけし、参加していただくようにしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食後、昼食後、就寝前に口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をライフチャートに記録し、体調管理をしている。また、嚥下に不安のある方、食事制限のある方などには職員全員が把握し個別に対応している。		



項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止対応マニュアルを作成し、対策に努めている。希望者には、インフルエンザの予防接種を行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日布巾、まな板、包丁などの消毒を行なっている。また、衛生管理マニュアルを作成し、衛生管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節ごとにプランターを設置し、あずまやにも利用者と共に花を植えたり、畑があるなど親しみやすい雰囲気に努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は、木造仕上げになっており暖かみのある雰囲気を作っている。和室には掘コタツ、床を配置し掛け軸を飾っている。また、季節に合わせた装飾も行なっている。自然の風も入り景色は最高である。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間として床付きの和室を、居間にはテレビとソファを設置し、自由にテレビ観賞できるように配慮している。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時、または随時使い慣れた家具や生活用品を持参され、使用されている。各居室の入り口には飾り棚を設け作品等を飾っている。本人の部屋の目印にもなっている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>あまり冷暖房に頼らず、温度調節は自然の風を取り入れて行なっている。換気などは注意してこまめに行なうよう配慮している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下・トイレ等に手すりを設置している。生活スペースはバリアフリーになっている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>日々の生活の中で、その人の出来ることやわかることを把握し対応している。居室やリビングの家具等の配置を工夫し、混乱が無いよう考えている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外にあずまや、遊歩道、芝生広場があり散策が出来る。ベランダにはプランターを置き花を植え、水遣りを行なっている。また、物干し場を設け利用者と共に洗濯物を干している。</p>		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然に囲まれ、遊歩道がありあずまやへの散歩コースがある。鳥のさえずりが聞こえ、高台にあるので足元の湖面が見える。散歩、外気浴が気軽に出来ている。ボランティアによる定期的な朗読と歌、ギター演奏、音楽療法など利用者の希望を尊重しながら、自由参加できるように計画を立てている。地域の保育園児との定期的な交流がある。地域の方のボランティアにより週1回「ふれあい喫茶」を開催し、希望者が利用されている。